

SWV380/Johannes 3,16 (ヨハネ 3,16)

- ・全曲中最も短く、単に譜面を音にするのは最も簡単ですが、逆にこの曲で聴衆を感動させるには最も様々な工夫が必要となります。他の作品は、音楽そのものが言葉の意味を描写する動きがあるのに対して、この作品は言葉がほとんどそのまま音楽になっているからです。真の意味でドイツ語と音楽の融合に最も成功している作品で、その要素が凝縮されています。

Also hat Gott die Welt geliebt/

神はかくもこの世を愛され、

daß er seinen eingebornen Sohn gab/

自らの独り子を与えたもうた。

- ・原語の語順に合わせて和訳は上記としましたが、日本語聖書では「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」とあります。Also 1語は「それほどまでに」という訳が一般的ですが、「それほどまで」が指すのは、地上にわが子を送りこんだことだけでなく、その子が世の罪を救うため十字架上で犠牲になったことまで含んでいます（なぜなら聖書の次の3,17には「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」と記されているからです）。人間の基準で考えるなら、他人を救うためにわが子に死の苦しみを味あわせることができるでしょうか（たとえ蘇りが完全に保証されていたとしても）。

以上を踏まえ、最初のAlsoには神への驚きと感謝を込め、ゆったりと十分に膨らんで歌います。

- ・シュッツのこの曲集では、基本的には母音の長短やアクセントの有無に合わせて音長が決められています。続くalso hat Gott die Welt geliebtを見ると、例外的に短母音のGottに長い音符が当てられ、しかもシンコペーションとなっていることから、ここではこのGottがシュッツが強調したかった単語であることがわかります。したがってこのGottを目立たせるため、前後の単語とわずかに切り離して発音する必要があります。順番に言うと、alsoはレガート、hatは短母音なのでスタカート、Gottはテヌートながらも短母音なので語尾は次の単語とはリエゾン禁止、dieは長母音なのでテヌート、Weltは母音を伸ばさず早めに語尾の子音-ltに移行、geliebtのge-も長く伸ばさず早めに次の子音lに移行します。geliebtの最後は5声揃って（テナー1が伸ばし過ぎないように）切ることが大切です。

- ・以下も上記同様の考え方が成り立ちます。daß er seinenは短母音的に、eingebornen Sohn gabは旋律の抑揚と音符の長短に素直に従って歌えば良いです。2度目のSohnのアルトとテナー1の8分音符の動きを目立たせます。

**auf daß alle/ die an ihn glauben/
nicht verloren werden/**

**その子を信じる者全てが、
見捨てられることなく、**

- ・この部分が支配するのは「信じる者は救われる」という確信です。2分音符が割り当てられた長いalleは全体を、細かな音符のalle, alleはその中の個々を示すことを意識してください。auf daßは軽くスタカート扱い、リエゾンなしで歌い、これによって後に続く長いalleを目立たせます。長いalleは、最初の音符の音長の半分で-l-の発音に移行します。短いalle, alleは単語の間はしっかり切って歌います。
- ・die an ihnのanは短母音なので母音を伸ばさず早めに-nに移行、次のihnとはリエゾンなしで歌います。nicht verloren werdenは旋律の抑揚、音符の長短、拍のアクセントなどに従います。練習番号C直前のwerdenも5声揃って（ここもテナー1が伸ばし過ぎないように）切ります。

sondern das ewige Leben haben.

永遠の命を得るためである。

- ・3拍子部分は喜びが支配します。2/2から3/2への移行は2/2部分の4分音符の長さが3/2部分の2分音符の長さ、もしくは少し長めになる、3拍子部分が少々速くなった演奏が一般的で、譜面に記された（1小節の長さが同じとなる）割り合いではテンポが遅すぎる印象を受けます。dasは短母音なので短かめ、ewigeのe-は「永遠」の長さを感じさせる歌い方が望まれます。ewigeの-geは母音を伸ばし過ぎずにLebenのL-に早めに移行します。